

企画展
ハイカラビューティフル
「大正ロマン
の世界」展
4/7 → 6/28

少女雑誌の部屋から

テレビもインターネットもなかった時代、少女たちにとって娯楽の最たるものが雑誌でした。月に一度の発売日を、首を長くして待ち、心躍らせながらページをめくる…その喜びはいかばかりだったでしょう。

そうして大事に読まれていたからこそ、今なお残っているものが多いのかもしれません。

当館のコレクションも、いつかの、どこかの少女たちが読んでいた大切な一冊一冊が集まって形成されたものです。



雑誌紹介 13

明治30年代～昭和40年代に発行された少女雑誌の中から主なものについてご紹介します

少女界（金港堂書籍／大洋社） 明治35(1902)年4月号～
終刊時期不明

日本で最初に発行された少女雑誌。同社が発行した『少年界』の姉雑誌として創刊された。

表紙絵はかぶらききよかた 鏗木清方、しゅんてい 宮川春汀、しゅうこう 富田秋香、としかた 水野年方ほか、執筆者にはかみやかくはん 神谷鶴伴、かほ 三宅花園、はに 羽仁もと子、吉屋信子ら多数。

少女小説のほか、「少女文学」や「学芸」、「おとぎ 御伽はなし 噺」などの文芸欄や通信欄を設け、読者からの投稿作文も募集した。



明治37年1月号
表紙絵：宮川春汀

少女雑誌を彩った挿絵画家たち 13

鏗木 清方（かぶらき きよかた） 1878—1972

東京神田に生まれる。本名は健一。

『東京日日新聞』（現・毎日新聞）創始者の一人で、優れた文人のしょうのさいぎく 條野採菊を父に持ち、その影響を受け、幼い頃から文芸に親しんで育つ。父やさんゆうていえん 三遊亭圓朝の勧めもあり、挿絵画家を目指し、明治24（1891）年水野年方に入門。明治26（1893）年に師の年方から「清方」の号を与えられた。その後、新聞の挿絵などを描くようになる。

明治34（1901）年、泉鏡花著『さんまいつづき 三枚續』の口絵と装幀を依頼され、鏡花と親交を結ぶ。この頃から日本画への関心を深め、特に文学から題材を得た作品を多く発表しはじめる。晩年は庶民生活を題材にした作品を多く手がけ、情趣あふれる日本画、優雅な文体による随筆を遺した。

鏗木清方の作品を観るには・・・鏗木清方記念美術館（神奈川県鎌倉市）

少女雑誌の豆知識

日本初の雑誌ってなあに？

日本で初めて少女雑誌が誕生したのは明治35（1902）年のことでしたが、日本初の雑誌は慶応3（1867）年10月に、洋学者のやながわしゅんざん 柳河春三が創刊した『西洋雑誌』（江戸開物社）だと言われています。和紙に木版刷りした小冊子で、「Magazine」の訳語に「雑誌」が用いられました。内容は、外国雑誌を模倣したもので、西欧諸国の歴史や人物伝のほか、自然科学、哲学など、新しい知識を紹介するものがほとんどでした。